

# 英語科学習指導案

授業者 川村 拓也

R.I.Steinsiek

学年・学級 3年1組

場 所 3年1組

## 1 単元 Let's Try1 “Unit5 What do you like?”

### 2 授業づくりについて

本年度の英語の授業では、自己紹介、はじめましての言い方、そして相手の調子を尋ねたり答えたりする活動から始動した。次に Unit3 How many?の単元では、1～20 までの英単語の言い方を学習してきた。また、その流れから How many〇〇?と、数がいくつあるのかを、Activity やゲームを重ねて、尋ねたり答えたりすることもできるようになった。児童は積極的に英語の授業に取り組み、慣れ親しむ様子が見られる。更に、誤りや失敗を恐れずに大きな声で歌を唄ったり、他の児童とジェスチャーやアイコンタクトを取りながら積極的に活動に参加したりすることができている。これらのことから、友人や教師を相手としたやりとりには十分に慣れ親しむことができている。しかし、知識としては十分に備わっているものの、それらを駆使して、相手とのやりとりの往復回数が増えるような実態にまでは力は高まっていない状態である。そこで本単元では、相手の好きなスポーツ、食べ物、野菜・フルーツ、色を尋ねたり、自分の好きなものを応えたりして、円滑、かつやりとりの回数が向上することを意識した単元になることを目的とした。

本単元では、“What do you like?”というテーマのもと、友だちや AET と好きな物を尋ねたり応えたりする活動を設定した。単元前半では What do you like?を用いればやりとりができるような活動を設定するが、次第に、「何のスポーツが好きか。」「何の食べ物が好きか。」というように、“What do you like?”というダイアログのみではやりとりができない場面へと移行していく。そうすることで、児童は “What sport do you like?” や、“What food do you like?” のダイアログを、必然性や必要感をもって学ぶことができるようになるであろう。また、やりとりを繰り返す中で、“What と do の間に尋ねたい物の種類を入れればよいという語順の知識についても、教師が促さずとも気づくことができるようになるはずである。そうなれば、尋ねたい物に変化しても、このダイアログが転用可能なものとなる。各授業ではその時間に提示するダイアログに沿った単語を学習する。食べ物、スポーツ、果物、そして色である。前単元までに学習している単語及びダイアログも含め、繰り返し学習したり、児童自身で難易度や学び方を選択したりする等、学習内容の着実な定着を図りたい。

指導に際しては、次の2点を大切にしていきたい。1 点目に、新出単語や新出ダイアログを学ぶ際に、個別最適な学びになるような教材を児童に提示することである。これまでの英語の授業では、フラッシュカードを用いて、教師対児童での一斉スタイルで授業を進めることが主な指導方法であった。しかしそうすると、知識が定着するまでの進捗や、興味・関心に応じて繰り返し発音練習ができないという課題があった。また、何を覚えて、何を覚えていないのか、ふり返ったり、再度学習したりする機会が個別に与えられてこなかった。しかし、個別最適な学びとなる教材を教師が児童の端末に送信することで、児童は自分のペースで、繰り返し発音練習をすることが可能になる。加えて、一斉練習における発音の間違いによる恥ずかしさをもった児童も、個人の練習になればその負担も軽減される。さらに、1 度児童に教材を送信すれば、場所や時間に制限されることなく学習することが可能になる。2 点目に、1 点目の教材を用いて、対話的な学びに発展させることである。個人の学びの後は、ペアで教材を見ながらやりとりの練習をする。そうすることで、学習内容が定着しているか、確認しやすくなる。また、教師の発音だけでなく、児童相互に発音を聞き合うことで、発音の違いやよさにも注目することが可能となる。教材を見ながらやりとりをし、できるようになれば次第に端末から離れ、ジェスチャーやアイコンタクト、既習事項の表現を組み合わせながら、相手意識をもったやりとりに挑戦させ、より相手と心を深く通わせられるような本物のやりとりへと昇華させたい。

4 指導と評価の計画（全4時間）

目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。（知・技）</li> <li>○ 相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりできる。（思・判・表）</li> </ul>		
	学習活動	教師の働きかけ	主な評価の視点
一 次	<p style="text-align: center;"><b>めあて：何が好きかを尋ねたり、答えたりできるようになろう。（3h）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 何が好きかを尋ねたり答えたりできるようになる。</li> <li>○ 語順の決まりに気づいて、目的に応じたやりとりができるようになる。</li> </ul>		
	<p>1)・本単元でできるようになることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出単語「食べ物」を覚える。</li> <li>・新出ダイアログ “What do you like?” を使う。</li> </ul> <p>2)・既習単語の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のスマールトークを聴く。</li> <li>・新出ダイアログ “What sports do you like?” を使う。</li> </ul> <p>3)・既習単語及びダイアログの復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出ダイアログを使う。【本時】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本単元を終えた時に何ができるようになっていくかをイメージするために、単元終了時のゴールの姿を伝える。</li> <li>○ 個別最適な学びができる教材を教師が提示することで、自分のペースに合った学習をすることができる。早く覚えることができた児童にはSECOND GOA 課題に取り組むように促す。</li> <li>○ 教師同士のやりとりを聴く、教師と児童のやりとりを聴く、最後に児童同士でのやりとりを重ねることで、多様な発音に触れる機会を設ける。互いの良いところを伝えたり、自分のうまく発音できていない所に気づいたりすることで、発音を見直すためのきっかけをつくる。</li> <li>○ 教師とAETとのやりとりの中で、“What do you like?” の質問のみでは自分の目的に合った情報を知ることができず、不都合が生じる場面を見せる。そうすることで、好きなスポーツ、食べ物、果物、色を尋ねるにはどのように伝えればよいか、学ぶ必然性をもたせるきっかけをつくる。</li> <li>○ What と do の間の単語を変えて何度も発音練習させることで、教師が直接的に指導をせずとも、児童が自ら語順の関係に気づくきっかけをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで相手の好きな物を尋ねたり、答えたりしてきた場面を想起している。それを英語でやりとりするためにはどのような表現があるのかを考えようとしている。</li> <li>・教材を基に単語及びダイアログを正しく唱えることができる。</li> <li>・自分に合った課題に挑戦しようとしている。</li> <li>・ジェスチャーやアイコンタクトを使い、相手を意識したやりとりの練習ができる。</li> <li>・語順のきまりに気づくことができる。</li> </ul>
二 次	<p style="text-align: center;"><b>めあて：これまで勉強したことを使ってやりとりしよう。（1h）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ やりとりの中で好きな物を尋ねたり答えたりできるようになる。</li> <li>○ 目的・場面・状況に応じた、相手意識をもったやりとりをすることができる。</li> </ul>		
	<p>4)・既習単語及びダイアログの復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Activityを通じて様々な相手と好きな物を尋ねあったり、答えあったりする。</li> <li>・パフォーマンス動画を撮影し、提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 既習事項の単語及びダイアログを覚えているかを確認するために、教科書教材のActivityを行う。</li> <li>○ 児童相互のやりとりを行わせることで、やりとりをする際には豊かな表情やジェスチャーを使えば相手により自分の気持ちが伝わりやすくなることを再確認させる。</li> <li>○ 上手にできている児童を代表でやりとりさせることで、ロールモデルを示す。</li> <li>○ 自分がどの程度やりとりができるようになったかを把握するために、パフォーマンス課題に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して、既習事項も交えながらやりとりをすることができる。</li> <li>・ジェスチャーやアイコンタクトを使い、相手を意識したやりとりの練習ができる。</li> </ul>

5 本時の学習（全4時間の第3時）

(1) 目標

- “What sport do you like?” “What food do you like?” “What fruit do you like?”  
“What color do you like?” “I like○○” を使ったやりとりができる。
- 既習事項を交えたやりとりができる。

(2) 本時の展開

子どもの活動	教師の働きかけ	評価の視点となる子どもの姿
<p>1. 前時までの単語とダイアログの復習をする。</p> <p>2. 本時の課題に気づく。 (1) Small talk を聴く。 (2) 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○ 個別最適な学びができる教材を教師が提示することで、自分の進度に合わせた学習をすることができる。早く覚えることができた児童には SECOND GOAL の課題に取り組むように促す。</p> <p>○ 教師が前時に学習したダイアログを用いて AET とやりとりをし、あえて不都合な場面を生じさせ、困り感を表出する。そうすることで、本時のダイアログを知り、使えるようになることの利点や具体的な場面をイメージやすくさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時で扱う英単語を正しく発音している。</li> <li>・ 前時までのダイアログと本時学ぶダイアログの違いに気づき、どのように伝えればよいか考えている。</li> </ul>
<p>尋ねたい物を 明確にした やりとりが できるようになろう。</p>		
<p>3. 新出ダイアログの発音練習をする。 (1) 教師と AET のやりとりを聴いたり、教師の発音の後に繰り返したりして練習する。 (2) 個別に端末を用いて発音をする。 (3) 児童相互に端末をもちいたやりとりの練習をする。</p>	<p>○ 児童同士でのやりとりの際は着実な定着を図るために、タブレットを見ながら、教師の発音の後に続けてやりとりを行うように促す。慣れてきたら、教師の音声を流さずに、スライドのみを見てのやりとりを行うように促す。それもできたら最後に端末を見ずにやりとりを行うように促す。</p> <p>○ 実態に応じた教材の扱い方を教師が明示することで、習熟の段階に合ったやりとりをすることが可能になる。また、スモールステップでの学習を行うことができる。そうすることで、安心感をもった練習ができる環境を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時で扱うダイアログを正しく発音している。</li> <li>・ 名詞の部分を入れ替えて様々なダイアログの発音に挑戦している。</li> </ul>
<p>4. 新出ダイアログを用いたやりとりを色々な児童と行う。 (1) やりとり① (2) 中間交流 (3) やりとり②</p>	<p>○ 相手意識をもったやりとりをさせるために、アイコンタクトやジェスチャーを取り入れたやりとりを行うように促す。</p> <p>○ 目的・場面・状況に応じたやりとりができるようになるために、既習事項を交えたやりとりをするように促す。そうすることで知識の着実な定着を図ることに繋げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表情やジェスチャーを豊かにした、相手意識をもったやりとりをしている。</li> <li>・ 既習事項を織り交ぜたやりとりをしている。</li> </ul>
<p>5. 活動をふり返る。</p>	<p>○ 学び方は正しかったのか、どの部分が課題なのかを内省させ、次時に繋げる。</p>	